

基本計画（骨子案）

1 基本計画の趣旨・位置づけ

基本計画では、基本構想に掲げる都市像の実現を目指し、本市が今後 10 年間に展開する施策の方向性を示す。（具体的事業は、期間 3 年の実施計画として別に定める。）

10 年間で達成すべき目標掲げる。施策の進捗状況などについて市民もチェックできるよう、わかりやすい目標となることを目指す。

市民にとって身近な地域についての方向性などを示すものとして区別計画を策定し、区の将来ビジョンや区の今後 10 年間の方向性などを示す。

時代の潮流の大きな変化に対応しながら、未来の仙台への責任を持つ「都市経営」の実現に向け、確実な取り組みの方向性を示す。

2 計画フレーム

計画の全体フレームとして、「計画期間」と「人口フレーム」を示す。人口フレームは計画策定時の趨勢をベースとした将来推計であり、施策展開にあたっての基本指標となる。

計画期間：2011 年（平成 23 年）～2020 年（平成 32 年）の 10 年間とする

人口フレーム（資料 5 参照）：推計上は 2012 年をピークに減少へ

3 基本計画の理念と方向性 ～課題に対応するために～

基本計画は、基本構想に掲げる超高齢社会・人口減少、世界的な環境意識の高まり、地方分権・地球交流時代の本格化など、転換期を迎えたわが国の時代潮流と、厳しさを増す財政状況に的確に対応することが求められる。これを踏まえた基本計画における「理念」と「視点」を示す。

(1) 理念

「成熟時代の成長戦略」を示す。

A) 創造的人材の獲得

- ・ 新しい価値を生み出す「創造的人材」を獲得することができるかが都市の持続的成長の「カギ」
- ・ 「優れた都市環境と暮らしやすさ、子弟の教育環境、学都の知的資源など、総合的な「都市力」を高めながら、人材の獲得に努めなければならない。

B) 都市型産業の誘致・育成

- ・ 「創造的人材」が活躍できるような研究開発産業などの都市型産業を誘致・育成することが重要

C) 都市機能の高度化・高質化

- ・ 都市は「交流の場」。知的人材や情報、モノ、カネなどの交流により、新しい価値創造の機会が生まれ、都市の持続的成長が可能になる。これを支える都市機能を有することが重要
- ・ 本市は「商都」として第 3 次産業関連の中小企業者が経済的基盤を担っており、都市機能を整備しながら中小企業者の活動を支え続けていくことが不可欠である。

D) 都市環境の向上

- ・ 本市が「選ばれる都市」であるためには、首都圏にはない都市環境を生かすことが重要になる。杜の都として自然と都市機能が調和した優れた都市環境を次世代につなぐとともに、低炭素化や循環型都市づくりなどに、市民と力を合わせながら取り組んでいくことが重要である。
- ・ 本市は 100 万都市の規模がありながら、中心市街地がコンパクトに形成されており、地下鉄東西線の開業などを生かして、一層の都市機能の集約化・高度化を進めることが重要になる。

未来に責任を持つ都市経営を目指す

A) 市民参加と新しい市民協働の構築

- ・ 市民への情報提供、市民意見の施策への反映、施策の評価システムなど、新たな「市民参加」手法を検討
- ・ 市民セクターと公共セクターの役割・分担、責任のあり方など、新しい市民協働のあり方を検討

B) 創造的行政運営と行財政改革

- ・ 健全で安定した行政運営を目指し、着実な行財政改革を進める
- ・ 都市施設の設置、運営、維持管理、更新など、施設運営全般に係るアセットマネジメントの枠組みをつくり、施設の有効活用を図る。

(2) 視点

「まだら化」する地域課題に対応

- ・ 地域課題の多様化が進行することを踏まえ、地域と共に課題を見つめ、対応することが不可欠
- ・ 地域での支え合い、共生、安全・安心・・・

「選ばれる都市」は「暮らしやすい都市」であり、仙台は良好な都市環境とコンパクトで、質の高い都市機能・都市構造を維持・発展させることが重要

学都の伝統や知的資源の活用：学都・仙台らしい「学びの場」づくりが重要

- ・ 都市は「交流の場」であり、人材が交流し、刺激しあう「学びの場」が不可欠
- ・ 全ての人が能力・個性を発揮して生き生きと暮らすために「学び」が重要

4 分野別計画（資料 7 参照）

基本構想に掲げる都市像の実現を目指し、今後 10 年間に展開する全市施策の方向性を「分野別計画」として体系化する。

分野別計画では、都市像の実現と「基本計画の視点」に掲げる時代潮流に的確に対応することを目指し、本市施策全体を市民に分かりやすく体系化していく。

基本計画の「視点」に基づき、分野別計画は、市民に身近な「地域」を重視した「市民の暮らし」分野と「都市構造」や「都市機能」に着目した「都市の魅力」分野の 2 分野とする。

分野別計画においては、直面する「動向と課題」と対応する「施策の方向性」を掲げ、その下に「基本的施策」を体系化する。

市民の暮らし

- ・ 健康で安全に安心して暮らせるまちづくり
- ・ 人が支え合う共生社会づくり
- ・ 未来を担う子どもたちが健やかに育つまちづくり
- ・ 協働による地域づくり
- ・ 市民力を生かしはぐくむ学びの都づくり

都市の魅力

- ・ 自然と調和する持続可能な環境都市づくり
- ・ 美しく魅力ある都市景観・空間づくり
- ・ 機能集約・地域再生型の市街地の形成
- ・ 公共交通中心の利便性の高い交通体系の構築
- ・ 地域を支える経済・活力づくり
- ・ 魅力を向上する都市力づくり

5 重点プロジェクト

A)きめ細かな地域づくり

都心や鉄道駅などの交通拠点周辺地域への人口集約が進む一方、人口減少や高齢化が目立つような地域も現れ、地域課題が複雑化している。このような中、高齢者、障害者などすべての人が自己の能力を発揮でき、子育てや「学び」、防災や安全・安心への対応、地域関連施設の利活用などの地域課題に細やかに対応する地域政策の展開を目指す。

地域政策の展開に当たっては、地域の多様な主体と共に課題解決に当たることが不可欠であり、より多様な市民参加・市民協働の枠組みを作り上げ、市民と共にまちづくりを進める。

地域政策をより効果的に展開するため、必要な行政組織のあり方を検討するとともに、職員研修など職員の意識改革を進める。

B)美しい杜の都づくり

本市は、人口が増加する中で市街地の外延化が進み、東北の中核都市としての基盤整備を進めてきた。特に、地下鉄南北線沿線に各種都市基盤の配置を進め、都市機能の強化を図ってきた。計画期間中に東西線が開通し、骨格的「都市軸」の形成を進める。

今後、資源・環境制約や、人口減少や成熟社会にあって財政制約が強まるなか、これまでのような都市基盤整備を続けていくことは困難になる。今後の都市基盤整備に当たっては、本市の中核性と都市活力を高めることができるような効果的な投資を厳選しながら、特に東西軸を中心に配置を進める。

都市軸に加え、都心、泉中央・長町地区の広域拠点、ＪＲ駅などを中心に公共交通を構築し、都市のスリム化を図り、都市機能を活用しやすい都市構造への転換を目指す。

都市計画道路網の見直しなど、従来型の外延的な整備計画を見直し、高質で集約型都市基盤への再編を図る。

C)学びの都づくり ～ミュージアム都市構想～

学芸員等の交流・連携により、博物館をはじめとする都市資源の相互活用とミュージアムの魅力向上を図る。

地域の中にある仙台の歴史、伝統、文化、食など、様々な都市の魅力・隠れた資源を拾い上げ、連携させることにより、地域の魅力の向上と地域における「学び」の場づくりを進め、都市全体があたかも一つのミュージアムであるかのような魅力ある都市づくりを進める。

6 区別計画（参考資料 2）

区が主体となり、地域住民等の意見を伺いながら、区の将来ビジョンや区の今後 10 年間の方向性などを示した区別計画を策定する。

7 計画の推進

分野別計画の体系にあわせ、できるだけわかりやすい目標を掲げる。

成熟社会にあって従来型の課題解決が困難になるなか、新しい市民協働による評価の仕組みづくりを検討する。

困難な時代状況にあっても、市民ニーズに的確に対応するため、創造的・効率的な都市経営を着実に推進する。

財源的裏づけを意識した実施計画の策定